

編集室から

暖冬かと思われた今冬。一月に入って、強烈な寒波に二度見舞われ、大変な思いをされた方々も多かったかと想います。私自身も、危うく大渋滞に巻き込まれそうなところでした。

危機管理と申しますが、危機に陥ってからではなす術は、ほとんどありません。事前の態勢づくり、準備こそが危機管理能力の高さ・減災に結びつくことは、言うまでもありません。

ですが、普段ほとんど平和ボケしている私達は、ボケた頭で考えようにも甚だ至らず、後から「想定外だった」「前提がこうなっていた」と申し開くしかできません。

想定外＝最大リスクであるとするならば、危機への想定を外してしまう原因となる「その前提」が、果たして正しいのか。今一度考え直す必要があるようです。ただし、ものの考え方の前提は、無意識・無評価で頭の中に設定されているものなので、それを意識して再考することは、実はそう簡単ではありません。

米国には暴走族がいません。あおり運転もされた事はありません。不審に思って現地の方に尋ねると「その場で死刑執行（銃で射殺）される危険がある行為はしない」との返事。「予想外の前提」があることに、とても驚いたことを今でも鮮明に覚えています。

銃がないこの国では、暴走族だけでなく、気に入らないと煽る輩、マスクを注意した医師にキレて掴みかかる老人がでてくるのは、なんとも皮肉な話です。暴れてもその場で射殺されることのない日本。一見、平和です。ですが平和を謳歌できる前提は何か？を見失ってしまっただけで、平穏は訪れないと思います。

毎年のように起きる自然災害に加え、新型コロナウイルスなどが、これでもかと訪れるのは、目を覚ませ！と窘められているかのようです。

立春後は善きことが続きますように。（は）



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2021/02
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2021/02
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

如 月



銭屋さん(金沢市)にて
by hama

「二〇二二年はワクチン次第」

再び出された緊急事態宣言にも今さら感が漂うだけで、先の見えないドロ沼に皆さんもウンザリしている事でしょう。そんな中、ようやくワクチン接種が現実味を帯びてきました。具体的な段階取りを含め問題山積ではありますが、まさしくゲームチェンジャーの期待を抱かせる切り札です。今年がどんな年になるのかは、ひとえにワクチンの接種率・有効性・副反応の二つにかかっています。現時点で判っている事をまとめてみました。

今のところ最も確からしいのは、有効性です。最近の変異株が話題になっていますが、そもそもコロナウイルスは僅かずつながら常に変異しています。それら全ての変異株に対しても、おそらくワクチンの有効性に問題はないだろうと考えられています。インフルエンザウイルスと違って、コロナウイルスは表面の蛋白質（抗原）が大きく変わるほどの変異を起こしにくいからです。

今回のワクチン開発は、異例の速さで成し遂げられました。それはm（メッセンジャー）RNAワクチンという、最新技術のおかげです。新型コロナウイルスの遺伝子配列は既に解読され、ウイルス表面の蛋白質を作るmRNAも解いています。そのmRNAを筋肉内に注入すれば望み通りの蛋白質が作られ、免疫細胞が反応して抗体が作られるというシナリオです。ただmRNAは極めて壊れやすいので、注射するには相当手の込んだ細工が必要なのです。ワクチンに対する最大の懸念は副反応、すなわちワクチン接種に伴って生じてしまう好ましくない反応です。人間に対するmRNAワクチンの使用経験はゼロに等しいです

から、正直何が起るかは判りません。接種後すぐに現れるアレルギー反応はまだ判りやすいのですが、長い時間たってから現れたり徐々に現れたりする可能性も否定できません。全ての副反応を見極めようとするなら、少なくとも数年はかかるでしょう。それも、多数の人に接種したうえでの話です。

ある集団にワクチンを接種してウイルス感染を終息させるには、六〇〜七十%（七〇〜九十%という説あり）の接種率が必要とされています。ワクチンで抗体が出来ていれば、感染しても速やかにウイルスは死滅します。つまり、無症候感染者がほぼゼロになるのです。今回の新型コロナウイルスがこれだけの世界的な大流行に至ったのは、無症候感染者がウイルスを撒き散らしたからです。これを止めるには、今のところロックダウンを延々と続けるかワクチンしかありません。そして無症候感染者がいなくなる限り、医療崩壊は時間の問題です。急病に罹ったり事故に遭ったりする危険性は、誰にでも有りうることです。医療崩壊とは、今までなら問題なく助かった命が容赦なく奪われるという意味です。

二月には、接種が始まりそうです。ワクチン接種は、義務ではありません。ワクチンのメリットとデメリットを理解して覚悟の上で接種に踏み切るか、嵐が去るまで自分だけはと身を潜め続けるか、決めるのは私たち一人一人に委ねられています。



【プロフィール】
（い）がき としお（金沢大学北浜寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とっっても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又クヌクしています。）

濱の起業塾 廿二『概論④』

起業アイデアを一人で思いつき、一人で実行に移して、自分一人の力だけで起業を成し遂げるの例は、ほとんどないと言っても良いかもしれない。極稀に独力ですべてをやりきってしまう天才が現れるかもしれないが、家族を含めて周囲に相当な「隠れた」犠牲が伴っていると思う。それほど、多様なスキルを一点に集中させねばならないのが起業活動である。

商店・飲食店・サービス業は、先行モデルが多いが故の起業ハードルがあるが、衰退しつつある地域の課題を解決し、振興へ誘導しようとする社会起業では、未だ先行モデルが確立されておらず、全国でさまざまなトライアルが展開されている。また、純粋な民間事業というより、社会益・共益的な面が強いため、最新のITを導入すれば即解決などというものは決して無く、泥臭い人間関係が問題の根底として沈み込んでいることもある。このような状況の

場合、技術力や発想力よりも、起業家の人間力こそが起業の先行きを左右することになってくる。

起業活動が進んでくると、何故かうまく進まないこともある。何が原因なのかさっぱり判らず途方に暮れる。こんなときに「視点・考え方」のヒントをくれるのが、メンター（伴走者）だ。

起業現場におけるメンターの必要性・重要性をどれだけ語っても尽くせない。自分の中に全く存在し無い発想を示されて、瞬間には理解できず目が点になったものの、その後ようやく真意が分かり、一生を支えるほどの幹となった経験がある。振り返れば、二度の起業をさせたのも、その時々で素晴らしいメンターに巡り会えたからだだったと、今では確信している。その縁にほんとうに感謝したい。

起業を目指す方々には、起業プロセスの早い段階で素晴らしいメンターに出逢う努力を強く勧めたい。また、起業経験を持つ方は是非、若くして志を掲げる人々にメンターとして接して頂きたいと切に願っている。

本書は、立正大学地球環境学部地理学科の松井秀郎教授(富山県出身)編著であり、1964年と2020年の『高等地図帳』(二宮書店)を比較し、全国47都道府県別の解説を立正大学地理学教室OBがそれぞれ執筆するものとなっている。

1964年と2020年(当初)はともに東京オリンピックイヤーであったが、この約60年間は日本の近代化が進展し、日本列島の地域構造が大転換した時期でもある。本書のねらいは、場所の位置と位置関係とが織りなす、地域の総合的理解を導く座右の書になることを念頭においている。

各都道府県の解説は約1,100字程度でありその特徴をあげると、

1. 大見出しと2つの小見出し(下に例示)
2. 人口データ
 - ① 1960年と1965年、2015年と2020年の各2時点間の人口変化
 - ② 1965年と2020年の人口年齢3区分別の円グラフこの人口データの提示は、概ね当該県の状況把握に有効である。
3. 開発計画、産業、交通、エネルギー、観光、災害などのポイントを解説
解説部分における執筆内容の取舍選択は各担当者によるが、概ね交通では鉄道の盛衰、とりわけ廃線の記述と高速道路の開通など、観光では国立公園、国定公園、重要伝統的建造物群保存地区(伝建群とする)について提示されている。この辺りは2時点の地図を比較するとよくわかる。

ちなみに例として、石川県の例として、大見出し、小見出しは以下である。

- 大見出し ・異なる性格をもつ半島地域と山地・平野部
- 小見出し ・交通網激変の景勝地・能登 ・観光と新産業が台頭する加賀

資料の特徴をあげると、

1. 主題図
全国ベースで気候、人口、土地利用を比較している。
2. 市町村合併(都道府県別)
先の平成の大合併だけでなく1964年以降の市町村合併が地図化されている。
3. 未来に引き継ぐ郷土の歴史・自然遺産(ブロック別)
国立公園、国定公園、世界遺産、伝建群、歴史の道百選、名水百選が指定・選定年別に示されている。

本書は、高校地理の教材や副読本としての活用だけではなく、一般の読者にも楽しんでいただける内容と構成になっているのではないと思う。誠に僣越ながら筆者は、青森県と秋田県を担当させていただいている。地理や地理学には手頃な一般書が少ないなか、ご一読をいただければ幸いです。

コロナ・コロナと2020年はこの3文字を多用することが多すぎてほんと飽きました。飽いたので使わないからコロナが消滅するのであればいいのですが、そんな訳もなくこれからの1年もまた使うケースが多いのかなと思うと更に辟易してしまいます。と年初から愚痴で始まってしまった訳ですが、今回はそんなコロナ禍(また使ってる。。。)のもとで群馬県みなかみ町に移住する事となった友人と年末に呑んだ際に出た愚痴について書いてみようかと思えます。1年のはじめに愚痴からスタートだと幸先がと思われるかも知れませんが、愚痴から見えてきた僕なりの気づきがあったなあという事で勘弁してください。

今年の4月を目途にその友人は25年の東京生活に見切りをつけて群馬県みなかみ町に家族5人で移住するのですが、理由はコロナが直接的な理由ではなく東京という大都市で生活していくことへのあほらしさに気づきコロナが決断を後押ししてくれたという感じのようです。では何をあほらしく感じてしまったのか?ということですが、ここからは会話調で行かせていただきます。

『川島さん、みなかみ町に移住する事を決めましたよ。スキー場やキャンプ場も近くにあり子ども達も気に入ってくれたし、何より役場の移住促進課の人がほんと動きが良く、住む予定の地域のキーマンの方たちともすでに会わせてもらったよ。』『もう決まったの?家は売れたんだっけ?』『まだなんだけど内見希望の方も多し、何人かは真剣に検討に入ったという情報ももらっているんで早めに次決めておこうかな。しかし、みなかみ町は安いよ。土地の坪単価が2万円切るくらいだし100坪買って平屋で広い家建てても4,000万円でおつりくるんだよ。今の家なんて土地だけで6,000万円の上物入れると8,000万円超えるからね。それで建坪25坪もない狭い家よ。まだ残債7割以上残っているし。』『そうだよ、うちもマンションだけど30年ローンでまだ2/3残っているし完済すると70歳近いよ。ローン払うために働いている気がする。どこのお父さんもそうなんだろうけど。』『川島さんそこよ。夢と大志をもって東京に出てきて約半世紀、経験や研鑽を積んだのは結果家の支払いのためだったという気がしてしまっただけ。だって田舎だとデフォルトもしくは早い段階でローン完済できる状態で仕事に向き合えるじゃん。となると今やっている仕事が果たして誰を幸せにしているのか、子ども達の未来がよりよいものになるためにやっているのか?自分が楽しいか?という目線で仕事を判別できるじゃない。今だと間違いなく割のいい案件や会社をファーストチョイスしているんだよね。もうそういうジレンマから解放されたいと思って。ちょうどコロナで広告デザイン案件も減ったしね今しかないかなって。』『それ身に染みるくらいわかるわ。何か動きたかったときに家のローンが足かせになって動けませんでした。みたいな事を人生の終わりに思うなんて悲しくなってくる。でもこの考えに至るのって20代の時には言葉で言われても腹におちないよね。東京に来て頑張っただけなのに成果を出してきたから、振り返ってみるとという感じなんだよね。』(つづく)

『富士の国から ～大魔神のたび～ 』 由布院への旅(2020.11/21~23)
神奈川県南足柄市企画部・都市部・教育部参事 溝口 久

三連休の中日だ、町内の車が増えてきている。早いところ今晚の宿である亀の井別荘に向かわなくては。金鱗湖畔にある宿周辺は特に混雑しやすい。歩行者と車が混然一体になっているから、宿が目と鼻の先にあるにも関わらずなかなか到着できない。やっとの思いで駐車場に車を滑り込ますと、宿の人がすぐに出てきてくれる。25年前初めて来たときに雨で、車のドアを開けるとさっと傘が出された時に感動は今も忘れない、そのことは今も変わらない。

玄関前の庭にある巨木が葉を落とし、落ち葉のじゅうたんができています。葺き替えられてまだ浅い茅葺屋根がすがすがしい。一部の隙もないのが亀の井別荘のスタイルだと思っている。これはわが師中谷健太郎さんから長男の太郎さんに経営が代わってもしっかり受け継がれている。玄関内部は、どこか茶の湯系の空間からスタイリッシュなデザインに変わっている。お茶のもてなしを受けた後、チェックインにはまだ時間があるから、湯の坪街道に繰り出すことにした。

インバウンドが無くなった今、空いているのかと思ったら大間違い。わんさか人が歩いている。小生がいたところも人出は多かったが、それを上回る。店も増えている。質も上がっている。

栄枯盛衰、無くなったものの代表は由布院美術館だと小生は思っている。象設計集団の富田玲子設計だった。平成3年に磯崎の駅舎とこの美術館を見ることが由布院に来るきっかけとなった。もう30年も前のことだ。今はCOMICO ART MUSEUM YUFUINが建っている。今を時めく隈研吾のデザインだ。根津美術館の流れにある。小山町に建つ足柄駅舎も当初のデザインは切妻と方形の組合せで、前述のデザインぽかったが、突如富士山の裾野の一部をイメージさせる屋根の形に変わった。

わが娘たちは買い物したいようで、湯の坪街道の店の探訪を続けた。小生はかつて建替えに知恵を絞った日の春旅館を久しぶりに訪問し、ご機嫌伺いをした後に亀の井別荘に戻った。

亀の井別荘は別府観光の父「油屋熊八」の要人招待客用に設けた別荘が始まりだ。温泉マークは氏が別府温泉のシンボルマークとして使ったのが始まりだ。「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」のキャッチコピーを考案し、これを書いた碑を富士山頂をはじめ全国各地に立て廻った。ホテル建設はもとより、温泉とゴルフを組み合わせたゴルフ場の開設、日本初のバスガイドによる別府地獄めぐり、これら全て1925~30年に掛けて手がけたこと。当時、相当にファンキーだし、今の日本観光の先駆者に間違いない。先日、南足柄市で作成中の今後五年間の観光基本計画を見せてもらった。

うーん、全く面白くない！「頑張ればできるワクワクする企画を盛り込みなさいよ」って返した。アサヒビール工場があるんだから「南足柄ビール祭り」とかね。今の世の状況では無理そうだけど、来年ぐらいには芽吹かせることぐらいね。

話を亀の井別荘に戻す。宿名の通り別荘から始まり高度成長期には別府の大型旅館化の影に隠れ、待てど暮らせどお客は来ない。当時日本は個人や家族で旅行に行く時代ではない、職場が農協が団体バスで温泉ホテルに着き温泉入って宴会して、帰っていくスタイルが主流。小生だって親に旅行なんて連れて行ってもらったことは無い。修学旅行が宿に泊まる初体験だった。由布院の民宿に毛が生えた程度の宿に団体受け入れはそもそも無理だ。1970年頃「別府様には叶いわせぬが、せめてなりたや天ヶ瀬に」と言っていた由布院が、今では「行ってみたい温泉地」の上位にランクされる常連になっている。なぜか？これについては多くのところで書かれているのでネットでチェックしていただければおわかりになるであろう。

亀の井別荘主の中谷健太郎さんがいなければ、こうはならなかっただろうということに異論を挟む人はいないであろう。（つづく）

